

マリレジャー安全レポート

第6号

第七管区海上保安本部
マリレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp



平成17年11月
プレジャーボート等
海難発生数

合計	10隻
衝突	1
乗揚	0
転覆	0
浸水	1
推進器障害	0
舵障害	1
機関故障	3
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航阻害	3
安全阻害	0
その他	1

救命胴衣着用を磯釣り客に指導

山口県長門市

12月10日と11日、仙崎海上保安部は、長門警察署、長門市消防本部、九州磯連山口県支部と合同で磯釣り愛好者に救命胴衣の着用と海中転落事故の防止を指導しました。同保安部は10日から19日までを救命胴衣着用推進運動期間と定め、関係機関と合同で磯などでの現場指導により、事故防止と救命胴衣着用の普及・啓発にあたります。

10日は、関係者16人が川尻岬で「救命胴衣の着用」「携帯電話など連絡手段の確保（防水パックの利用）」「118（海の緊急電話）の有効活用」など「自己救命策三つの基本」や「単独行動の自粛」「気象情報の把握」「行き先、帰宅時刻等の家族等への伝達」などを呼びかけました。

川尻岬周辺で釣り中の愛好者27人中、救命胴衣着用者は11人（約4割）で、まだまだ、救命胴衣着用への理解は薄いようです。

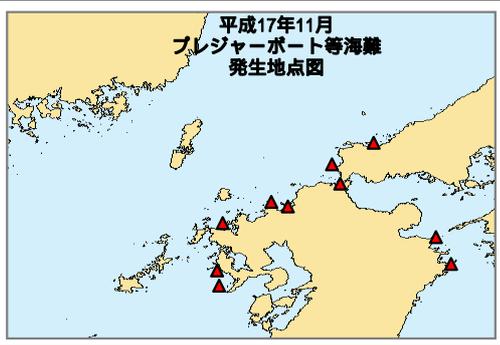
七管管内では11月末現在、釣り中の事故者は25人で、このうち死亡・行方不明者は11人となっており、11人中10人は海中転落によるものです。自己の安全と家族の安心のためにも、是非、救命胴衣を着用しましょう。



プレジャーボート等海難発生数推移



平成17年11月
プレジャーボート等海難
発生地点図



冬場に入り、海難が減少傾向！

錨泊中のバッテリー過放電による機関起動不能が相変わらず多く発生しています。錨泊中の電力使用については、「少し位使用しても大丈夫」と考えて使用しているケースが多いようです。使用する場合は、主機関を起動し、発電機を併用する等の対策を講じましょう！

樺島（長崎市野母崎町）で釣り人2名が死亡

【事故概要】

11月27日午後4時頃、釣りに出た男性（33歳）の妻から「夫と友人が帰らない」との通報が警察にあり、警察、海保等により捜索中の翌28日、付近の磯場に漂着しているこの男性が発見され、検視の結果、死因は溺死と判明した。同行の男性（29歳）については、30日に警察ダイバーにより海底から発見された。

携帯電話の通話状況から事故の発生は27日の12時頃と推定され、事故当時、現場付近は西の風6m、波1m、うねり2mがあったが、状況から両名は釣り中に高波にさらわれたものと推定された。発見時に1名は、フローティングベストを着用、もう1名の同ベストは磯場に漂着した状態で発見された。

【教訓】

携帯電話用防水パックを活用しましょう！

事故が発生した場合、一刻も早い救助要請が必要です。救助が遅れることにより体温低下による衰弱や磯波等により溺死に至ることがあります。万一の転落に備えて、携帯電話を防水パックに入れて身につけておくことが有効です。

ライフジャケットの着用は確実に！

生存のためには、先ず浮くことです。ライフジャケットの着用は当然ですが、着用した場合も転落時に脱げることをないように適切に着用しましょう。

気象状態や磯の状況を把握し安全な釣り場で！

気象・海象状況は出かける前に確実に把握し、磯場に着いてからも条件が悪ければ釣りを止める勇気や海中転落した場合も想定して、自力で上陸出来ること、同行者等により救助が可能な場所を選択することも必要です。



